令和８年度　　小平第三中学校　授業改善推進プラン

技術・家庭科　１年生

１　日常の学習状況について

１年生の技術・家庭科の学習状況については、以下のような特徴が見られる。

（１）全体的には授業への取組は意欲的で、学びを楽しんでいる生徒が多い。

（２）経験が浅いながらも、班で協力して実習を行うことができている。

（３）課題提出や技能面でサポートが必要な生徒が各クラスにいる。

２　期末考査等の結果を踏まえて

プリントから出題した基礎的な問題の正答率が低く、学力の定着に課題が見られた。

３　学力に関する状況

１、２より、本校の現１年生の技術・家庭科の学力については、以下のような傾向が見られる。

（１）知識の定着に課題が残る。

（２）課題提出や技能面でサポートが必要な生徒が一定数いる。

４　教科の課題

（１）指導面の課題（授業評価アンケートより）**◎→そう思う　〇→ややそう思う**

①　授業のねらいや流れがはっきりしていて見通しがもてる

（**技術**：◎82.2%〇13.9%）◎＋〇＝96.1%　（**家庭**：◎67.8%〇22.2%）◎＋〇＝90%

②　授業規律が守られ、授業に集中できる環境が整っている。

（**技術**：◎86.1%〇10%）◎＋〇＝96.1%　（**家庭**：◎64.3%〇23%）◎＋〇＝87.3%

③　授業内容の指示、説明がわかりやすい。

（**技術**：◎86.5%〇12%）◎＋〇＝98.5%　（**家庭**：◎70.4%〇19.1%）　◎＋〇＝89.5%

④　意欲的に取り組めるような授業になっている。

（**技術**：◎77.8%〇16.5%）◎＋〇＝94.3%　（**家庭**：◎67.4%〇22.6%）◎＋〇＝90%

⑤　板書やプリント、ICT 機器の活用等が工夫され、理解が深まる。

（**技術**：◎76.1%〇16.5%）◎＋〇＝92.6%　（**家庭**：◎65.7%〇22.2%）◎＋〇＝87.9%

①～④の結果より、肯定的評価を高める必要がある。

家庭は②と③が 90%を割っているため特に改善を図る必要がある。

⑤の結果から、技術・家庭ともに、ＩＣＴ機器を効果的に活用していると実感している生徒が少ないことが分かる。

（２）学習面の課題

実生活における実践的、体験的な活動が不足している生徒が多く、基礎的な知識・技能との結び付きが弱い。

５　改善の計画

（１）授業内のルールを徹底し、聞く場面と作業する場面のメリハリをつけて授業を展開する。

（２）体験的な学習を多く取り入れ座学が苦手な生徒の興味関心を引き立てていくとともに、知識と技能が有機的に結び付くようにする。

（３）個別に配慮すべき生徒が、視覚的に情報を理解しやすくするために動画教材等を効果的に使用する。また、実習の際は手順を何度でも確認できるようにＩＣＴ機器を効果的に活用する。

６　成果の確認

この「授業改善推進プラン」の成果については、令和８年度末に以下の方法で評価する。

（１）学期ごとの観点別学習状況評価を比較

（２）期末考査の結果や作品

令和８年度　　小平第三中学校　授業改善推進プラン

技術・家庭科　２年生

１　日常の学習状況について

２年生の技術・家庭科の学習状況については、以下のような特徴が見られる。

（１）意欲的に取り組む生徒は多いが、苦手意識をもっている生徒も目立つ。

（２）経験が浅い中、班で協力して実習を行うことができている。

（３）課題提出や技能面でサポートが必要な生徒が各クラスにいる。

２　期末考査等の結果を踏まえて

授業プリントからの出題等、一般的な問題については正解率が高かった。

３　学力に関する状況

１・２より、本校の現２年生の技術・家庭科の学力については、以下のような傾向が見られる。

（１）主体的に考え学習に取り組むことができている。

（２）経験不足のため、一つ一つの作業に時間を要する。

４　教科の課題

（１）指導面の課題（授業評価アンケートより）**◎→そう思う　〇→ややそう思う**

①　授業のねらいや流れがはっきりしていて見通しがもてる

（**技術**：◎80.2%〇19.8%）◎＋〇＝100%　（**家庭**：◎62.5%〇33.6%）◎＋〇＝96.1%

②　授業規律が守られ、授業に集中できる環境が整っている。

（**技術**：◎84.9%〇14.2%）◎＋〇＝99.1%　（**家庭**：◎63.8%〇29.7%）◎＋〇＝93.5%

③　授業内容の指示、説明がわかりやすい。

（**技術**：◎83.2%〇16.8%）◎＋〇＝100%　（**家庭**：◎66.4%〇28%）◎＋〇＝94.4%

④　意欲的に取り組めるような授業になっている。

（**技術**：◎80.6%〇18.5%）◎＋〇＝99.1%　（**家庭**：◎64.7%〇30.6%）◎＋〇＝95.3%

⑤　板書やプリント、ICT 機器の活用等が工夫され、理解が深まる。

（**技術**：◎77.5%〇16.2%）◎＋〇＝98.3%　（**家庭**：◎61.6%〇32.3%）◎＋〇＝93.9%

①～④の結果より、肯定的評価を高める必要がある。

⑤の結果から、技術・家庭ともに、ICT 機器を効果的に活用していると実感している生徒が少ないことが分かる。

（２）学習面の課題

実生活における実践的、体験的な活動が不足している生徒が多く、基礎的な知識・技能との結び付きが弱い。

５　改善の計画

（１）授業内のルールを徹底し、聞く場面と作業する場面のメリハリをつけて授業を展開する。

（２）体験的な学習を多く取り入れ座学が苦手な生徒の興味関心を引き立てていくとともに、知識と技能が有機的に結びつくようにする。

（３）個別に配慮すべき生徒が、視覚的に情報を理解しやすくするために動画教材等を効果的に使用する。また、実習の際は手順を何度でも確認できるようにＩＣＴ機器を効果的に活用する。

６　成果の確認

この「授業改善推進プラン」の成果については、令和８年度末に以下の方法で評価する。

（１）学期ごとの観点別学習状況評価を比較

（２）期末考査の結果や作品

令和８年度　　小平第三中学校　授業改善推進プラン

技術・家庭科　３年生

１　日常の学習状況について

３年生の技術・家庭科の学習状況については、以下のような特徴が見られる。
（１）全体的に落ち着いて授業に取り組めているが、意欲的な発言は少ない。
（２）プリント類は熱心に記入する生徒が多い。
（３）提出物関係は良好であるが、一部に課題のある生徒がいる。

２　期末考査等の結果を踏まえて

設問に対して適切な語句で解答できている生徒が多く、基礎的な知識はある程度定着していると感じた。思考力・判断力・表現力を問う問題では、授業の理解度により差が見られた。

３　学力に関する状況

１、２より、本校の現３年生の技術・家庭科の学力については、以下のような傾向が見られる。
（１）教科に対する学習意識が高く、全体的にある程度知識が身に付いている。
（２）課題提出や技能面でサポートが必要な生徒が一定数いる。

４　教科の課題

（１）学習面
基礎知識がある程度定着しているため、思考力・判断力・表現力を高める発展的な発問が必要。
（２）指導面
サポートが必要な生徒への配慮が欠けている。また、生徒が身近に感じられるような授業展開ができていない。

５　授業改善について

（１）学習面
①　日常生活に基づいた学習題材の導入
生活課題の発見と解決に向け、主体的に学ぶことのできる学習題材を取り入れ、思考力・判断力・表現力を身に付ける。また、実生活と結び付けることで教材に対しての興味関心を高め生徒の関心を引く導入にする。
②　振り返りの時間の確保
振り返りの際に自らの授業に対する考察ができ、より深い思考ができる時間を確保する。
③ICT の活用
日々の授業からＩＣＴを活用し、視覚的にも分かりやすい授業をおこなう。また、実習などは何度でも確認できるようにＩＣＴの活用を徹底する。
（２）指導面
①　指導と評価の一体化
指導と評価を一体化するべく、評価の過程をできるだけ透明化し、どの部分を補えばよいか理解できるようにする。また、授業のねらいをはっきりとさせる。
②　特別支援教育の視点に立った教材提示
特別な支援の必要な生徒など個別に配慮が必要な生徒が、授業を受ける際に理解できるように、学習内容の提示方法を工夫する。

６　成果の確認

この「授業改善推進プラン」の成果については、令和８年度末に以下の方法で評価する。
（１）学期ごとの観点別学習状況評価を比較
（２）期末考査の結果や作品